

令和5年度 学校評価報告

草加市立草加中学校

(令和6年1月30日作成)

1 学校教育目標 「目標を持ち、努力する生徒」	
2 重点目標・努力目標 「指導方法の工夫改善を行い、生徒一人ひとりを伸ばし育てる」 (1)「いまをたくましく生きる」ための確かな学力を育む学習指導 (2)「いまをたくましく生きる」ための生徒指導 (3)幼保小中を一貫した教育の推進 (4)地域とともにある学校づくりの推進 (5)「いまをたくましく生きる」ための健康教育・安全教育の充実 (6)多面的・多角的に考える生徒を育む道德教育の推進 (7)インクルーシブ教育の視点を持つ学校教育の推進 (8)「いまをたくましく生きる」ための進路指導の充実	3 前年度の成果と課題 成果 ○全職員が学校教育目標の具現化に向けて共通理解を認識し、組織的に取り組むことができた。 ○全教職員が積極的にICTを活用した授業を取り入れ、わかる授業づくりや基礎学力の定着を図る環境づくりができた。 ○自己肯定感を育む道德授業の推進を全教職員で行うことができた。 課題 ●基礎学力の定着を図る取組の更なる推進。 ●「特別の教科 道德」の更なる研究。 ●体力の向上。 ●学校図書を整備・充実と生徒の読書活動の推進。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教育目標が教職員に周知され、教育活動を進める上でいかされている。 ○担当校務分掌については計画的に進め、処理することができている。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○校内研修の主題や年間計画について全教職員が共通理解できており、研修は協力的・意欲的に行うことができた。 ○校外の研修会・研究会に積極的に参加することができた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○生徒の健康や安全についての配慮を常に行うことができた。 ○保健・給食・安全指導に関する環境整備の必要性を全職員が共通理解できた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○施設・設備の安全維持・管理に全教職員で取り組めた。 ●多様な情報推進メディアの学習環境の整備と積極的な活用がやや課題となっている。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校運営協議会を通して、学校の現状を伝えながら建設的な意見交換ができた。 ●保護者用学校評価において『学校だよりや学年だよりで学校の様子を分かりやすく伝えている』の項目で前年度より5ポイント近く減少した。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○幼保小中連携では情報交換を密にし、共通理解を図った。小中乗り入れ授業の充実が図れた。(数学) ○コロナ明けで一貫教育に関する行事を計画的に行うことができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が教育目標を理解し、教育活動を進め、学年・指導にいかした。 ○「自分の考えを的確に表現する力」を身に付けさせる教育活動が展開できた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の教科会での話し合いを充実させ、生徒の思いや願いをいかす授業展開とわかる授業が実践できた。 ○学校の授業は分かりやすいと回答した生徒が94%を超えた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的な心情や判断力、実践意欲や態度等道徳性を養う指導の充実を図ることができた。 ○学年間で教材等の情報共有ができており、学年教員が全クラスの道徳を受け持つ授業体制を組むことができた。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会本部や専門委員会組織を中心に活発な活動が計画・実践できた。 ○学校行事はコロナウイルス感染症を考慮しつつコロナ以前の内容で実施することができた。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりに応じた評価ができ、学年全体で組織的・系統的に授業が実践できた。 ○地域の方と連携した地域防災学習が実施できた。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的にいじめ対策委員会を開催し、さまざまな角度からいじめに対する見解を検討することができた。 ○生徒の生活・学習意欲を高める積極的生徒指導ができた。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な進路だよりを全学年に配布することができた。 ○3Daysの代替えでキッザニア東京に行くなどの体験学習を取り入れることができた。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画を元に生徒一人ひとりの特性に応じた指導を心がけた。 ○SC、SSWや諸機関と連携し、解決に向けた検討会やケース会議を通して、諸課題の解決を図った。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○司書教諭、学校司書が中心となり積極的な図書館経営ができた。 ●生徒会、図書委員会により学級文庫の充実を図ったが、朝読書の時間が確保できないことがあった。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した情報教育の推進を図ることができた。 ●多様な情報通信メディアの学習環境の整備と積極的な活用については更なる充実が必要である。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を実施し、人権教育に関する理解を深めた。 ○他人の痛みを共有できる豊かな人権感覚を育む人権教育の推進を図ることができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力向上の取組について	・指導方法の工夫改善を行い、生徒一人ひとりを伸ばし育てる	A	○基礎基本の定着を目指し5つのコンテストを継承実施することができた。 ○基礎学力向上を意識して授業に取り組むことができた。
	幼保小中を一貫した教育の取組について	・教師間での交流の深化 ・児童生徒の交流の深化	A	○小中乗り入れ授業の充実が図れた。 ○コロナ明けで小学生が中学校を訪問し、中学生と語る会等の交流行事が行えるようになった。
	読書活動推進に関する取組	・自ら読書に親しむ児童生徒の育成	A	○委員会を中心にたくさんの本を読んでもらうための工夫を考え実施したことにより、読書数が増加した。 ●県学調『1か月に何冊本を読むか』の項目について『読まない』『1～2冊』の割合が県平均の割合より高かった。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)**【教職員】**

・学校評価『校外の研修会・研究会に積極的に参加することができた。』（前年度AB評価+20ポイント）『PTAとの連携を深める諸活動への参加を積極的に行うことができた。』（同+10ポイント）など、自己研鑽に努め、授業等に生かしたり、行事を充実させながらPTAとの協力体制を図ったりすることができた。

・自己肯定感を育む授業の推進を全教職員で行うことができた。

・基礎学力の定着を目指し、年間を通して計画的にコンテストを実施した。定期テスト前には、補習も実施し、個々の学力の向上に努めた。

・『ボランティア・福祉に関わる教育活動の推進を図ることができた。』（同-25ポイント）など、福祉教育については課題がある。

【保護者】

・学校評価『授業はわかりやすく、学力が向上している。』（同+1.6ポイント）『基礎体力が向上している。』（+2.1ポイント）等、前年度よりも良い評価をいただいた。

・学校評価『進路について、適切な情報が豊富である』（同-8.4ポイント）について、進路日よりや各学年の進路学習の内容の更なる充実等が必要である。

6 次年度の改善策

- ・生徒指導に関する教職員間の共通理解の徹底。
- ・教職員研修の内容の精選。
- ・校務分掌の精選。
- ・時間外の超過勤務の削減等の取組。
- ・「特別の教科 道徳」の更なる研究。
- ・学校図書を整備・充実と生徒の読書活動の推進。
- ・配信メールの効果的な活用。